「 律令国家での暮らし 」　　　　　　　帝国書院ｐ３６

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動・内容 | 支援 | 評価 |
| 導入（５分） | ①班田収授法について  ・発問  「奈良時代、６才になると国から与えられたものは何でしょうか？」  ・生徒の予想  「お金」「お米」など  ・６才になると国から口分田が与えられたこと、口分田は死んだら国へ返さないといけないことを説明し、学習の動機付けを行う。  ・発問  　「なぜ口分田を与えたのでしょうか？」  ・生徒の予想  　「税を納めさせるため」など  ・当時の税の仕組みが農民の生活にどのような影響を与えていたのかを投げかけ、学習課題につなげる。  ②学習課題  律令にもとづく土地・税制度が農民の生活にどのような影響を与えたのか。 | ・パワーポイントの活用  ・現在の自分の生活と比較させる。 | 【関・意・態】 |
| 展開（４０分） | ③税の仕組みについて（10分）  ・班田収授法、口分田、租調庸の仕組みを、教科書をもとに理解する。  ④話し合い活動（25分）  ・「古代と現代の税で、納めているものと税の目的」を個人で考え、付箋紙に記入する。〈５分〉  ・グループ活動〈10分〉  ア、付箋紙をワークシートに貼り付け、意見を整理する。  　イ、話し合い  「奈良時代の税制度には、どのような課題があるのか？」  ウ、全体発表〈10分〉  ・現在の税が国民の生活向上に役立てられていることに対し、古代の税が納税者である農民のために役立てられていなかったことを理解する。  ⑤墾田永年私財法について（５分）  ・墾田永年私財法の内容と背景を理解する。 | ・パワーポイントと  ワークシートの活用  ・机間指導を行い、税金が使われている身近なものを考えさせる。  ・発表しながら、貼り付けする。  ・机間指導を行い、現在との比較を視点にする。  ・電子黒板の活用  ・パワーポイントの活用  ・パワーポイントと  ワークシートの活用 | 【思・判・表】  話し合い活動  発表  評価シート |
| まとめ（５分） | ⑥本時の振り返り  ・律令にもとづく土地・税制度が農民の生活にどのような影響を与えたのか、税の課題もふまえて自分の考えをまとめる。 | ・机間指導を通して、意見をまとめられない生徒に対し、本時の内容を振り返る。 | 【思・判・表】  ワークシート |

「 権力をにぎった貴族たち 」　　　　　　帝国書院ｐ４２

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動・内容 | 支援 | 評価 |
| 導入（５分） | ①藤原氏について  ・発問  「現在、日本で一番多い名字は何でしょう。」  ・生徒の予想  「比嘉」「鈴木」「安倍」「當山」など  ・藤の漢字がつく名字が多いことを説明し、学習の動機付けを行う。  ②学習課題  藤原氏はどのようにして摂関政治を行ったのだろうか。 | ・パワーポイントの活用  ・沖縄の名字ランキングも紹介し、関心を高める。 | 【関・意・態】 |
| 展開（４０分） | ③平安時代の始まりについて（10分）  ・桓武天皇により都が平安京に移されたこと、のちに朝廷による東北支配が強まったことを教科書をもとに理解する。  ④話し合い活動（30分）  ・一条天皇を取り上げ、発問「なぜ７才で天皇がつとまるのか」  ・生徒の予想  　「代わりの誰かがいた」等  ・藤原氏が摂関政治を行ったこと、律令のしくみが整い天皇が幼くても問題がなかったことを理解する。  ・「藤原氏と天皇家は、お互いをどう思っていたのか」を個人で考える。  ・個人の意見を基に、「摂関政治の課題について」ペアで、話し合う。〈10分〉  ・数ペア指名し、発表する。〈５分〉  ・藤原氏が権力を維持していくために、どのような工夫をしていたのかを理解する。 | ・パワーポイントと  ワークシートの活用  ・パワーポイントの活用  ・現在の自分の生活と比較させる。  ・６才で口分田を与えられた農民と比較させる。  ・パワーポイントと  ワークシートの活用  ・藤原氏については摂関政治を維持する上で心配していること、天皇については摂関政治をどう思っているのかを考えさせる。 | 【関・意・態】  評価シート |
| まとめ（５分） | ⑤本時の振り返り  ・藤原氏はどのようにして政治を行ったのか、理解したことをまとめる。  ・評価 | ・机間指導を通して、意見をまとめられない生徒に対し、本時の内容を振り返る。 | 【知・理】  ワークシート  自己評価  （学習活動） |

「 唐風から日本風へ変わる文化 」　　　　　帝国書院ｐ４４

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 学習活動・内容・発問等 | 予想される生徒の反応 | 評価、留意点等 |
| 導　入（ ５分 ） | ①平安時代の貴族の暮らしについて  ・クイズを行い、学習の動機づけを図る。  「次の内、正しいのはどれでしょうか」  １ 寝殿造りにトイレはなく、砂を入れた箱を用いた。  ２ １日２食が基本で、白米や魚のほかチーズも食べた。  ３ 結婚の決まりや手続きはなかった。  （正解は全て正しい）  ・結婚の決まりは特にないが、貴族の恋愛に和歌（文字）が不可欠だったことを関連付けながら本時の学習目標を説明する。  ②本時の学習目標  かな文字の起こりを例に、国風文化にはどのような特色があるのか考えよう。 | ・自由に発言し、それぞれの選択肢について考える。  ・現代との差に驚く。話が大きく逸れないようにする。 | ・パワーポイント資料を活用し、説明する。 |
| 展開（ ４０分 ） | ③平仮名と片仮名の起こりについて  （５分）  ・発問「平仮名と片仮名は何をもとに作られましたか。」  ・発問「平仮名と片仮名はどのようにして使い始められましたか。」  ・平仮名は女性が和歌を綴るために、片仮名は僧がお経にある漢字のふりがなとして使い始めた。  ④話し合い活動（35分）  ・発問「平仮名と片仮名が便利な点や良い点は何でしょうか」  ・菅原道真の和歌と仮名一覧を参考に個で考える。〈５分〉  　平仮名は赤色の付箋紙に記入  　片仮名は青色の付箋紙に記入  ・グループで話し合い、思考ツールを活用して意見をまとめる。〈15分〉  ・各グループ、発表する。〈10分〉  ・漢字だけでは表せない日本人の感情を表現するのに表音文字の仮名文字が便利であること、それが平安時代に形成されたことを理解する。〈５分〉 | ・漢字がもとになった。  ・漢字だけだと読みづらい、等。  ・意見をまとめられない生徒に対しては、自分が文章を書くときにどのように使い分けているか想起させたり、キーワードだけの記入でも構わないことを声かけしたりする。 | ・パワーポイント資料を活用し、説明する。  ・平安時代に平仮名と片仮名が使われるようになった背景を振り返る。  ・平仮名と片仮名をどのように使い分けるか考える。  【関心・意欲・態度】  〈評価シート〉  ・パワーポイント資料を活用し、実例を示しながら説明する。 |
| まとめ（ ５分 ） | ⑤本時のまとめ  ・かな文字の起こりを例に、国風文化にはどのような特色があるのかを自分でまとめる。  ⑥自己評価、相互評価 | ・意見をまとめられない生徒に対しては、本時の内容を振り返る。 | 【思考・判断・表現】  〈ワークシート〉 |